

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0874100514		
法人名	社会福祉法人 県西せいかん荘		
事業所名	県西せいかん荘 認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	茨城県筑西市蓬田255 (電話) 0296-20-4343		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】(平成20年 9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 19日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	450 円	昼食 450 円
	夕食	480 円	おやつ (実費) 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(9月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.6 歳	最低 77 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県西総合病院 ・ せいかん荘クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

せいかん荘のせいかんとは生還の意があり、利用者が家庭に復帰して欲しいとの思いから設立されたホームである。アニマルセラピー・園芸療法・音楽療法等を積極的に取り入れ、残存機能を維持していけるようリハビリに力を入れている。また、併設の特別養護老人ホームやデイサービスの利用者との交流もある。利用者、家族にとって安心できる医療・介護支援を提供し、可能な限り自立した生活が送れるような運営体制である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域との付き合い・運営に関する家族等意見の反映・プライバシーの確保の徹底で改善課題が取り上げられたが、職員との会議等を行いながら改善策を考え、実施されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の報告内容を管理者・職員で共有し、積極的により良いものを作っていくと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では外部評価の結果・改善策について、ホームの現状・年間計画、市町村との連携(体験学習等の受け入れ計画)の報告、話し合いが行われている。会議の内容は議事録に残し、参加できなかった家族、職員に伝えるようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2ヶ月に1度、家族介護デーを設け、その場を活用しながら家族からの意見を聞いている。他に、家族会等でも意見の場を提供している。意見箱も設置され、第三者の表記もされているが、重要事項説明書への第三者明記を提案する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(お祭り、運動会)参加のほか、事業所主催の敬老の日の行事に、地域の参加を呼びかけ交流の場を積極的に作っている。自治会加入は利用者個人の対応となるが(加入している利用者もいる)、行事や話し合いにはホームとして参加し連携を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	せいかん荘の理念は、家庭復帰・社会復帰を目指し、「生還」の意味が込められている。この理念を柱に、毎年職員との話し合いの中から年間の行動目標を決め、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や会議で理念に基づく運営方針や、年間の行動目標について話し合われている。職員は理念を、ケアを実践していく上での指針として捉えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の行事(お祭り・運動会)に参加。青年会との交流も今年から始まった。事業所主催の敬老の日のイベントにも地域の方がたくさん参加している。自治会加入は利用者個人の対応となるが(加入している利用者もいる)、行事や話し合いにはホームとして参加し連携を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価に対し、ホームの質の確保・向上につながることを認識されている。会議等で具体的な改善策に向けた話し合いが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用者・家族・事業所・行政・ボランティア・民生委員等の参加で外部評価結果の報告、改善に向けた具体的な取り組みについて、多くの率直な意見を引き出せるよう行っている。		

茨城県 県西せいかん荘認知症対応型共同生活介護事業所

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>中・高校生の体験学習、公務員の研修の場に提供している。市役所を訪問し、広報誌の交換・話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の1日介護の日を利用し家族会を開催し、アルバムを渡したり日常生活の様子がわかるよう、報告を行っている。個別には、別室で情報提供を行ったり、担当職員から状態の変化があった時に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話等で家族の意見を聞けるようにしている。その他に、意見や不満・苦情が表せる機会づくりとして意見箱を設置し、玄関に苦情受付担当者・第3者窓口が表示されている。</p>		<p>重要事項説明書に第3者窓口の市町村の担当課、国保連の連絡先を明示することを提案する。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みのある環境を損なわないよう、十分考慮した人事異動を行っている。利用者と職員が馴染みの関わりが作れるよう担当制にし、ローテーションしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を立て、職員の能力に応じた研修に参加。研修参加後は伝達研修を開催し全職員で共有し、実践に取り入れている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームと交流を持ち、全職員が参加し意見交換・勉強会を行い、質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時に、本人の意向を確認し、対応を協議し関係性の構築に努めている。その間、ホームに見学に来てもらったり、体験入所の受け入れ態勢も整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、いろいろな場面で教えてもらうという姿勢を持ち、地域の風習・家事・畑仕事など、利用者から学びながら生活している。学びを得られるような場面がもてるように工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ、3ヶ月毎に担当者を交代している。利用者との関わりに偏りがなく、新たな発見が出来る目的からである。意思表示の困難な利用者に対してはアセスメントから「本人はどうか」という視点に立ち、支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス等で情報を共有し、利用者個々の出来ること・出来ないこと・声掛けの方法等を記録し、計画に反映させている。リハビリもレクリエーションに取り入れ、楽しみながら行えるように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月・3ヶ月で定期的な見直しを行っている。職員の日々の気づきを記録しておくことで計画作成に反映できるようにしている。状態の変化が見られたときはすぐにカンファレンスを開催し、計画の見直しを行っている。カンファレンスの内容も記録し、家族に経過報告を行い同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養・デイサービスの利用者との交流の場を設け、家族の希望や利用者の状況に合わせて支援が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるせいかん荘クリニックの医局長が理事長であり、毎日利用者の状態を診に来ている。通院は家族が対応し、受診結果の報告を受け記録している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化に応じ、本人・家族の意向を尊重し対応している。終末期に向けた支援については、時期を見計らい同意書を取り、介護計画の見直しを行っている。急変時のマニュアルも有り、管理者が指導しながら取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳ある施設をモットーに取り組み、全職員周知のもと日々のケアに努めている。家族との話し合いには医局長室を使用し、個人情報に関わるカルテ等の書類は鍵のかかる場所に保管されている。広報誌の顔写真掲載に関しても同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての日課は決まっているが、利用者のペースを尊重した過ごし方を支援している。利用者は自由に中庭を散歩したり、家事を職員と共に行ったりと、安全面を確保され、生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設の特養で立て、栄養バランスは計算され、形態も利用者に応じ工夫されている。また、季節に応じた食材や畑で収穫したものを用いたり、行事食を取り入れるなどして楽しむ工夫がされている。調理経験のある利用者が職員と一緒に配膳、片付けを行い、個々の能力に応じた支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には併設の特養にある檜風呂を提供している。また、入浴剤を毎週変えて楽しんでもらったり、行事風呂も取り入れている。利用者の希望に沿った入浴を行えるように日課の見直しを行い工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴を把握し、一人ひとりの力が発揮できるよう、家事・畑仕事・庭掃除等役割ある環境作りをしている(調理師・造園業であった利用者の生き生きとした姿が見られた)。おやつ作りには全員が参加し、レシピやそのときの様子がうかがえる写真がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭をバリアフリー化し、自由に散策できるように支援している。外出・買い物は利用者の状態に合わせ、希望に沿うように努めている。家族にも外出・外泊を行えるよう声掛けを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を考慮し、夜間は外部からの不審者を遮断するため施錠している。日中は鍵を閉めず、自由に中庭等を出入りしている。但し、職員の目の届く範囲で、安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害避難訓練を消防署・消防団・地域の方たちと協力して行っている。消火器の設置場所、避難場所も職員に周知している。備蓄品についても点検、整備されている。事業所としての応急処置の訓練も3ヶ月毎に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはカンファレンスで決定され、形態も咀嚼力、嚥下力をアセスメントして利用者にあつた工夫がされている。摂取量は個人カルテに記録し、管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室は季節感を取り入れた飾り付けを利用者と一緒に作成している。玄関やホールでは一年の行事がわかるような飾り付けになっていて、心地よい音楽を流し、リラックスできる雰囲気づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのある家具等を持ち込み、居心地良く過ごせる環境を作っている。ベッドは状態の変化に対応できるよう、電動リクライニングのものが使用されている。		